4つの視点で読み解く 次期学習指導要領

2018年3月、文部科学省から高校の次期学習指導要領が公表された。
今回の改訂では、過去の改訂と比べて大幅な変更がなされており、
22年度の実施までに、自校の学校教育をデザインしていくためには、
これまで以上にその内容を理解することが重要になる。
では、どのような点に着目して、学習指導要領を読んでいけばよいのだろうか。
今号では、現場の高校教師と実施したワークショップ型の読み解き会と
本誌読者モニターへのアンケートで挙がった声を基に、その視点を整理。
そして、それらの視点を踏まえ、学校現場にはどのような実践が求められるのかを、
具体的な事例を通じて考えていく。

学習指導要領改訂のポイント（抜粋）

◎改訂の基本的な考え方

- 子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。
- 現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。
- 高等学校教育を含む初等中等教育改革、大学教育改革、大学入学者選抜改革の一体的な改革の中で実施される改訂。

◎知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

- 「何ができるようになるか」を明確化。
- すべての教科等を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理。
- 生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出すため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要。

◎各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

- 「主体的・対話的で深い学び」の充実には、単元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫することが必要。
- 学校全体として、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立。

◎教科・科目構成の見直し

- 国語科における科目の再編、地理歴史科や公民科における科目の新設、共通教科「理数」の新設など、目指す資質・能力を踏まえつつ、教科・科目の構成を改善。

◎教育内容の主な改善事項

- 言語能力の確実な育成、理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、道徳教育の充実、外国語教育の充実、職業教育の充実など。

＊文部科学省「高等学校学習指導要領の改訂のポイント」を基に編集部で作成。

本号のテーマ

次期学習指導要領を読み解くための視点と、これからの指導のあり方を考える

1 学習指導要領改訂のねらいを押さえる

【P.4 ～ 5】

◎「コンテンツ」中心の教育から、「何ができるようになったか」という「コンピテンシー」重視の教育に転換を図る。

◎教科の本質である「見方・考え方」を働かせた、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行い、資質・能力の3つの柱を育む。

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室室長
白井 俊

2 次期学習指導要領を読み解くための4つの視点をつかむ

【P.6 ～ 9】

現場の高校教師によるワークショップ型の読み解き会と、本誌読者モニターのアンケートで挙がった声を基に、次期学習指導要領の理解を深める視点を4つに整理

視点1 社会に開かれた教育課程
次期学習指導要領で実現を目指すすべての基盤となる考え方・理念であり、教師間でまずこの共通理解が必要。

視点2 資質・能力の3つの柱
「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」をどのように育むのか。そのバランスや育成の進め方が重要に。

視点3 資質・能力を育成する探究
どのような学びが探究なのか、各教科の授業でどのように実践していくのか。教師間での共通理解が求められる。

視点4 学習評価
3つの観点での学習評価をどのように実現するか。特に、数値で測りきれない資質・能力の評価が課題になる。

3 4つの視点に基づいた指導のあり方を考える

「探究」を通じて資質・能力を育む実践事例　広島県立広高校　【P.10 ～ 15】

どの力を使って、何を探究するのかを、毎授業で提示し、学びの質を高める

主体性等の評価に向けて、その実現の鍵を高校・大学の両視点から探る　【P.16 ～ 19】

主体性等の評価の導入で求められる、生徒の変容を見取り、省察を促す力

（座談会参加者／左から順に）
大阪大学特任助教 **井ノ上憲司**
関西学院大学専任講師 **時任隼平**（ときとう）

北海道札幌北高校 **福士公一朗**
兵庫県・私立灘中学校・高校 **井上志音**（しおん）
岡山県立玉島高校副校長 **山﨑淑加**（やまさきよしか）

ご活用ください！　自校でできる読み解き研修会　その実践の手順を紹介 【P.20 ～ 21】